

三月、巢立ちのとき。北の国では、雪の下から久々の大地が温かな顔をのぞかせ。南の地方では、早咲きの桜が枝々を淡く彩るこの季節は、子どもらを送るのにふさわしい時機といえるのかも知れない。

しかし、幼稚園から大学まで、それどころか、官公庁、銀行、一般商社やデパートまで、三月から四月へかけて一斉に年度を改めるとは、考えてみれば何と徹底したお国柄であることだろう。そして、私どもは、いつか、このことの自明性を問おうとすらしなくなっている。遂、この間、大掃除やら古ものの始末やらに忙殺されつつ、暦の年号を改めたばかりだというのに……。私生活の暦と、公生活の暦との、ものの見事な共存というべきであろうか。

公的な暦の統一を推進したのは、いうまでもなく、明治以降の近代化の動きで

あろう。幼い子どもに限っていえば、満六才の四月には、いや応なしに小学校に入学しなければならないという生活暦が、がっちり個人を絡め取ったということになる。そして、それに合わせて、幼稚園の入園と卒園も、明確に区切られることになった。夏の水遊びをもう一度経験したいから九月に卒業したいとか、お正月から気分も新たに小学校生活を始めたなどという、個人々の心情は、公的な学校暦の中に介入の余地もないということだ。

こうした画一化が、わが国の公教育を効率化させ、一定の水準を保たせてきたことは確かであろう。しかし、と同時に、たくさんものを抹殺してきたこともまた、疑うべくもない。現在、自明と見えることの背後に、無数の葬り去られた可能性がうごめている。私どもは、折ある毎に、それらを思い返さねばならないのではないだろうか。

(H)

### 幼児の教育 第八十四巻 第三号

三月号 ⑦

定価三〇〇円

昭和六十年二月二十五日 印刷

昭和六十年三月一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子  
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所  
所フレイベル館にお願いします